



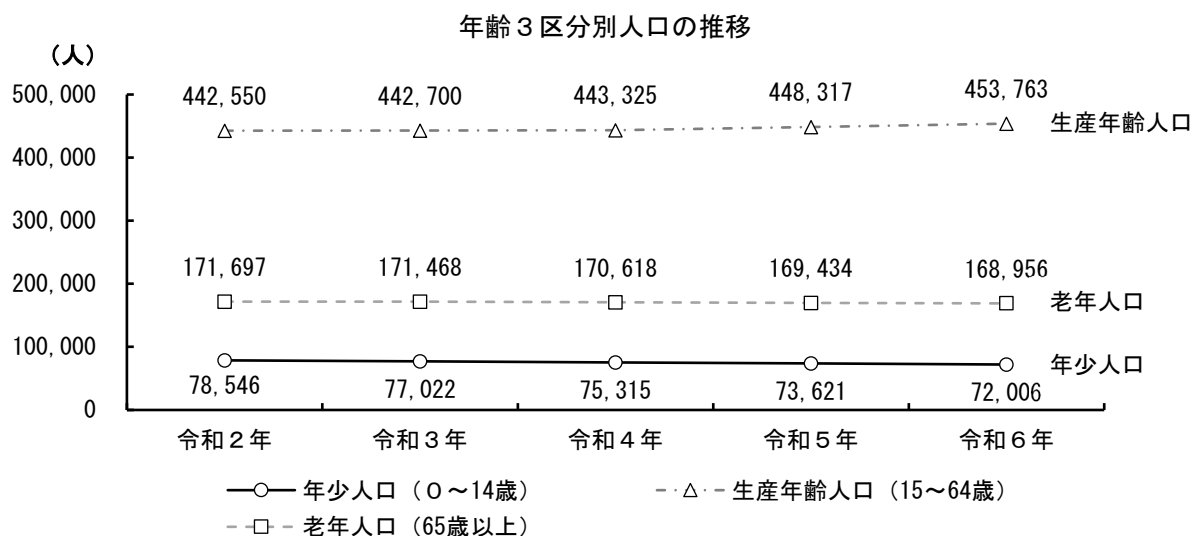
足立区の子ども・子育て家庭を 取り巻く現状と課題

1 足立区の概況

(1) 人口の状況

年齢3区分別人口の推移

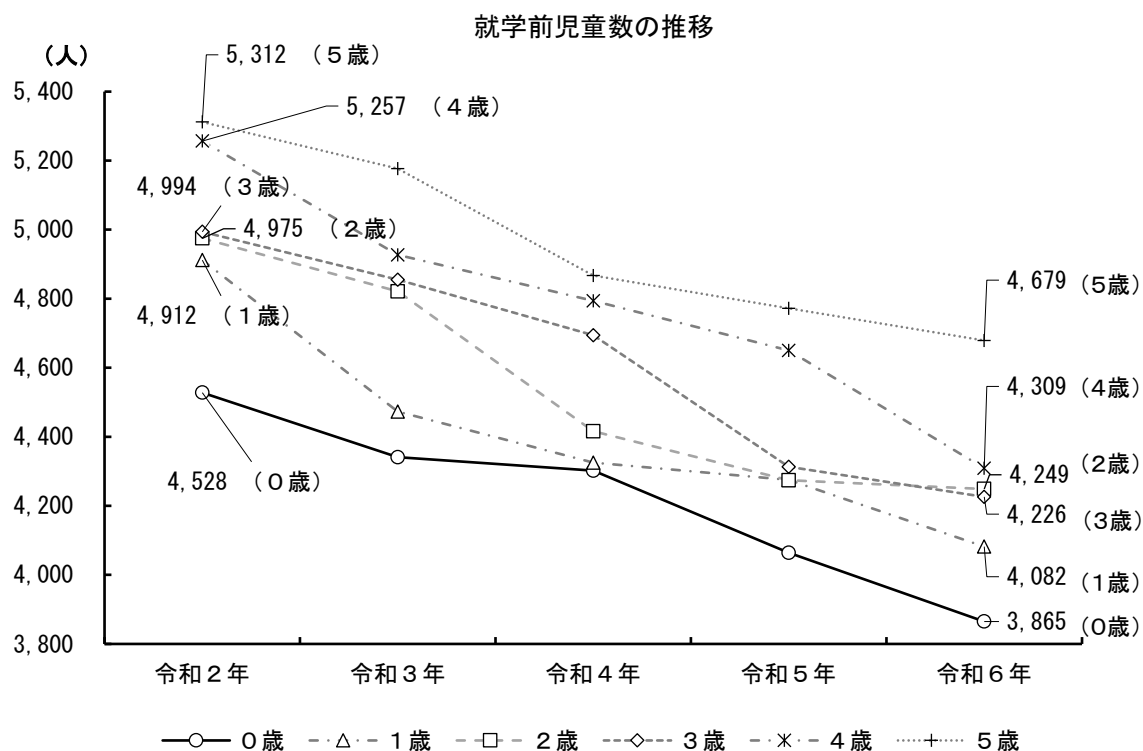
- ① 令和6年4月時点の総人口は約69.5万人で、令和2年から約2千人増加しています。
- ② 令和6年4月時点の年少人口（0～14歳）は約7.2万人で、令和2年と比較して約8.3%減少しています。
- ③ 令和6年4月時点の生産年齢人口（15～64歳）は約45.4万人で、令和2年と比較して約2.5%増加しています。
- ④ 人口推計によると、年少人口（0～14歳）は令和5年（2023年）をピークに、その後は緩やかに減少し、生産年齢人口（15～64歳）は令和9年（2027年）をピークに減少に転じ、老年人口（65歳以上）は令和48年（2066年）をピークに、その後は減少に転じます。



資料：住民基本台帳より作成

年齢別就学前児童数の人口推移

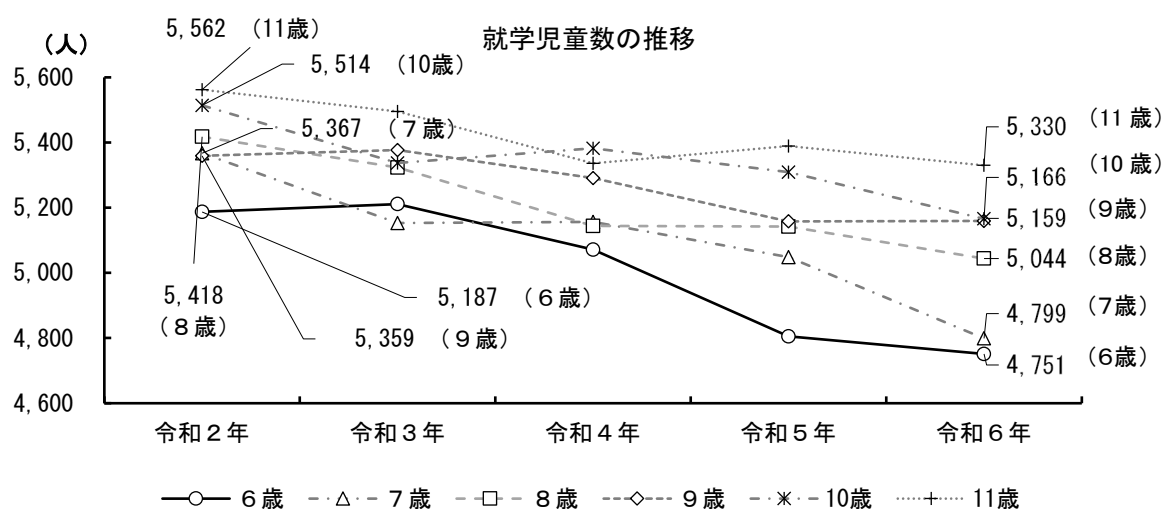
- ① 令和6年4月時点の0歳から5歳の子どもの人口は25,410人です。
- ② 令和2年4月時点と比較して約15.2%減少しています。



資料：住民基本台帳より作成

年齢別就学児の人口推移

- ① 令和6年4月時点の6歳から11歳の子どもの人口は30,249人です。
- ② 令和2年4月時点と比較して約6.7%減少しています。

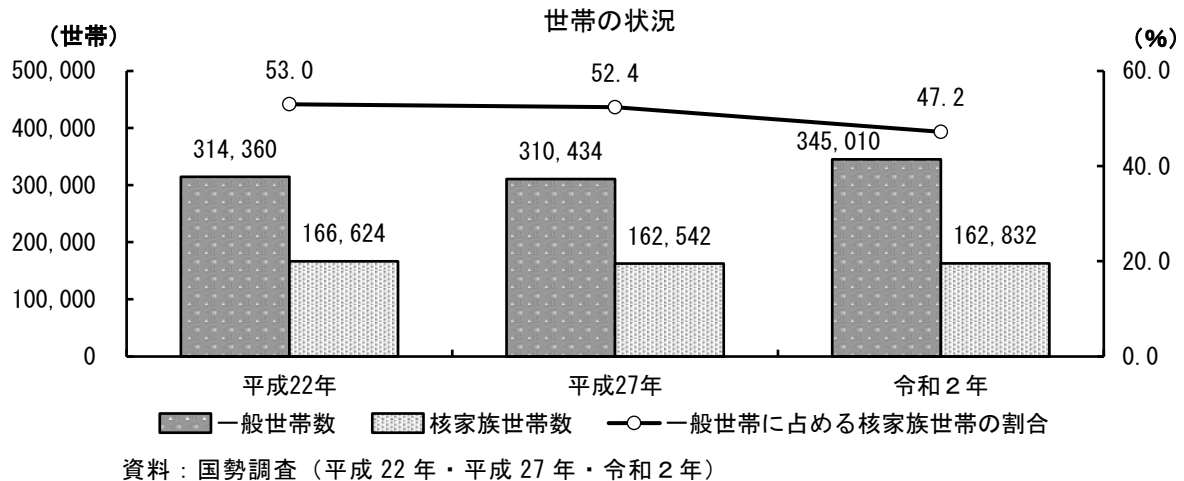


資料：住民基本台帳より作成

(2) 世帯の状況

世帯の状況

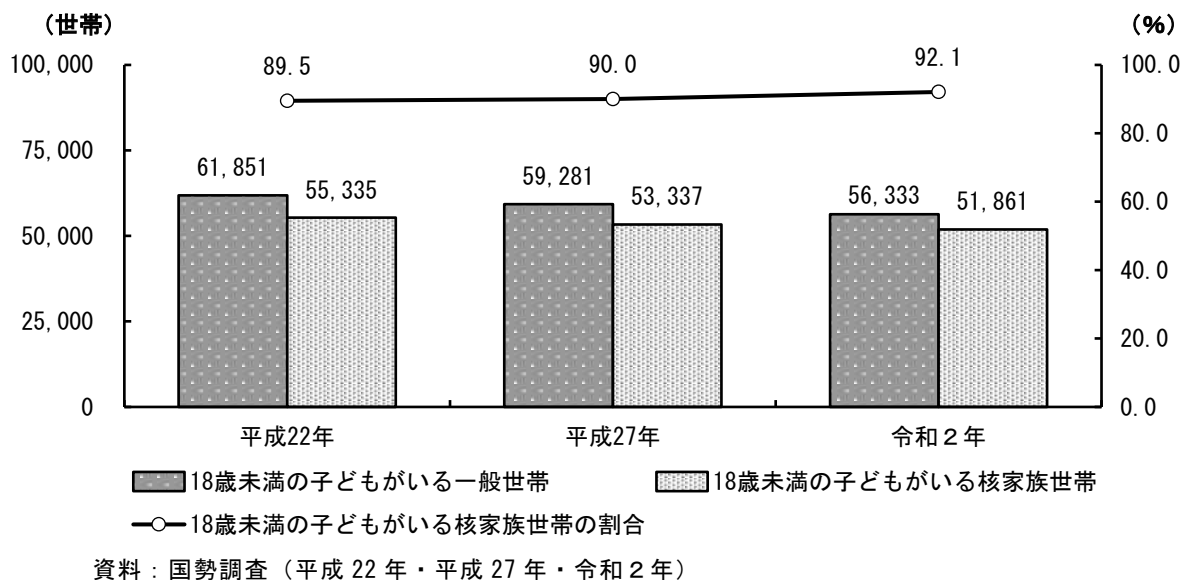
- ① 令和2年の一般世帯³は345,010世帯で、平成22年から約9.8%増加しています。
- ② 令和2年の核家族世帯⁴は162,832世帯で、平成22年から約2.3%減少しています。



18歳未満の子どもがいる世帯の状況

- ① 令和2年の18歳未満の子どもがいる一般世帯は56,333世帯で、平成22年から約8.9%減少しています。
- ② 令和2年の18歳未満の子どもがいる核家族世帯は51,861世帯で、平成22年から約6.3%減少しています。

18歳未満の子どもがいる世帯の状況



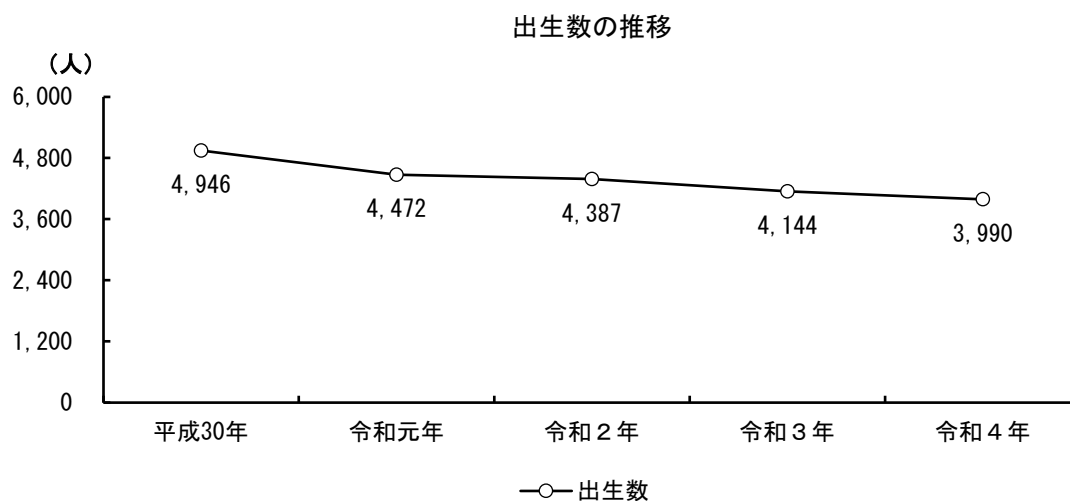
3 住居及び生計を共にする者の集まり又は独立して住居を維持し、若しくは独立して生計を営む単身者。

4 夫婦のみの世帯、夫婦と子供から成る世帯、男親と子供から成る世帯、女親と子供から成る世帯。

(3) 出生の状況

出生数の推移

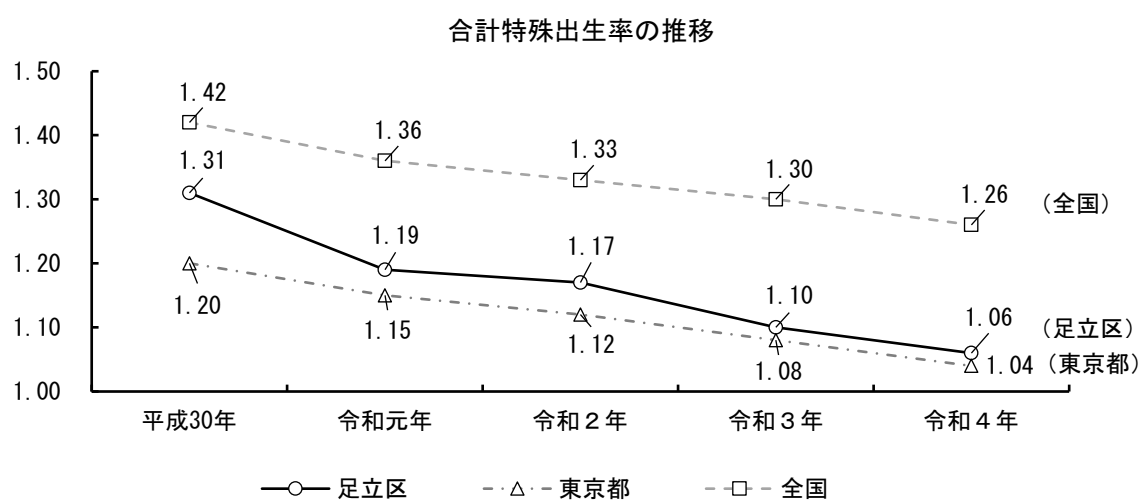
足立区の出生数は、令和4年に3,990人と、過去5年間で約2割減少しています。



資料：東京都保健医療局 人口動態統計

合計特殊出生率の推移

足立区の「合計特殊出生率⁵」は平成30年より大きく減少し、令和4年で1.06となっています。また、全国と比較すると低い値で推移しています。



資料：東京都保健医療局 人口動態統計（区、都）厚生労働省 人口動態統計（国）

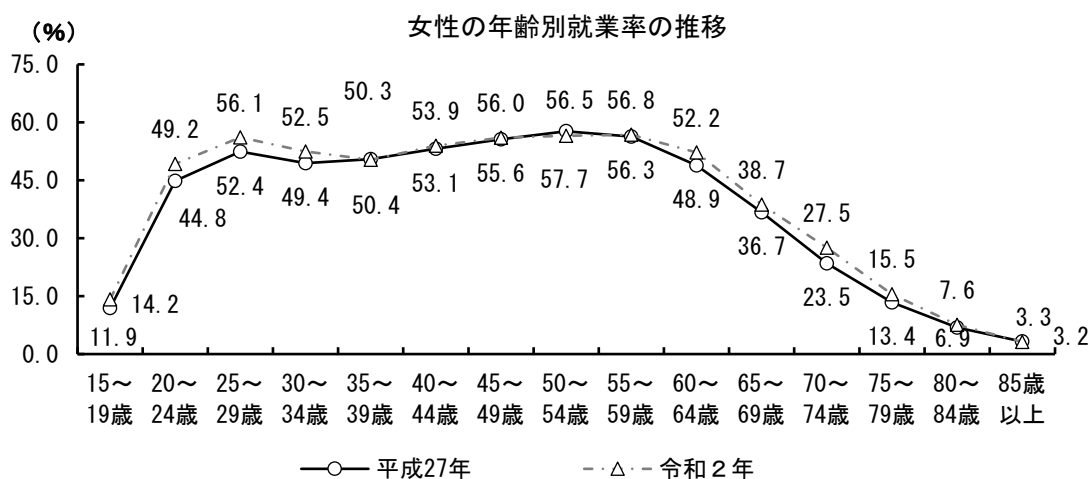
5 15歳から49歳までの女子の年齢階級別出生率を合計したもの。一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に産むとしたときの合計数に相当する。

2 子どもや子育て家庭を取り巻く状況

(1) 女性の就業率の状況

女性の年齢別就業率の推移（足立区）

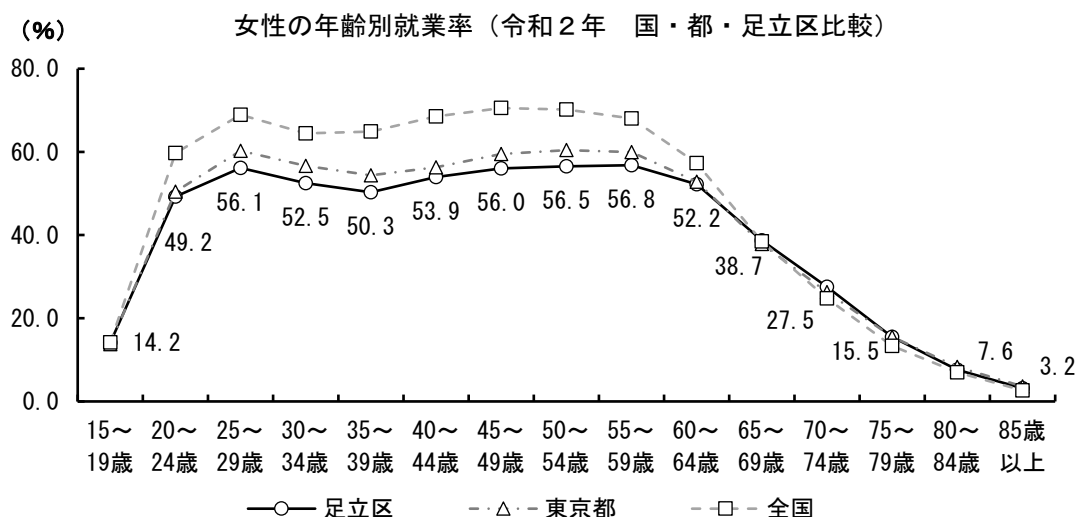
- ① 足立区の女性の年齢別就業率は、出産・育児期に落ち込み、再び増加するM字カーブを描いています。
- ② 近年M字カーブは緩やかになっていますが、落ち込みの大きい25～34歳で見ると、25歳～29歳の就業率は平成27年52.4%、令和2年は56.1%と3.7p高く、30歳～34歳の就業率は平成27年49.4%、令和2年は52.5%と3.1p高くなっています。



資料：国勢調査（平成27年・令和2年）

女性の年齢別就業率（令和2年 国・都・足立区比較）

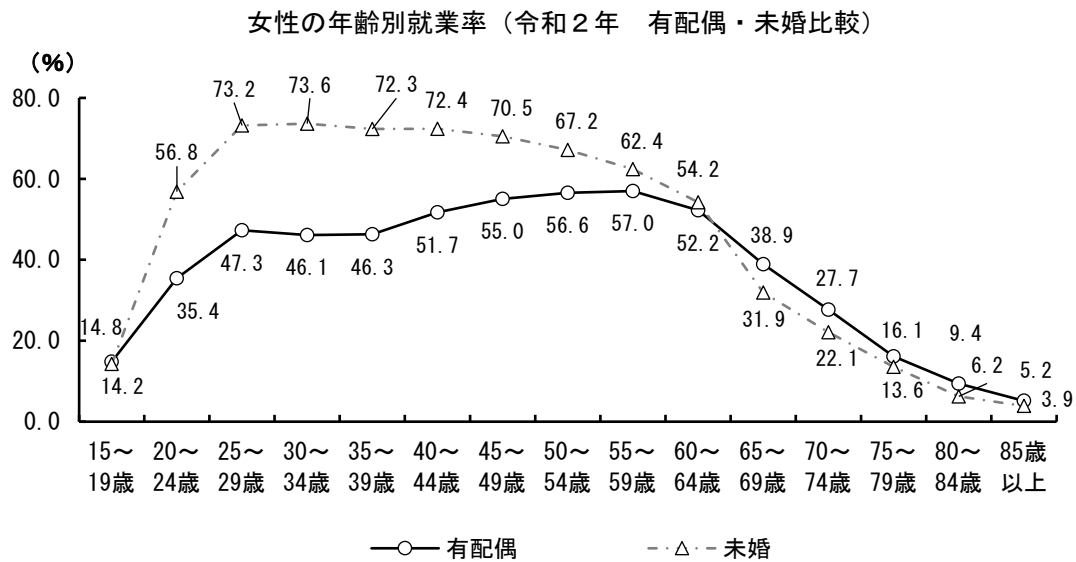
足立区の令和2年の女性の年齢別就業率を国、都と比較すると、20～64歳で全国、都より低く、65歳以降では同程度となっています。



資料：国勢調査（令和2年）

女性の年齢別就業率（令和2年 有配偶・未婚比較）

足立区の令和2年の女性の有配偶⁶・未婚別就業率をみると、20歳代から50歳代までの有配偶者と比較し、未婚者の就業率が高くなっています。



資料：国勢調査（令和2年）

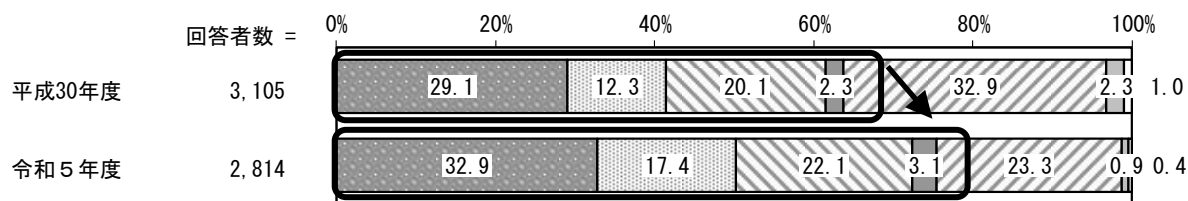
6 妻又は夫のある人。

区内の母親の就労形態は、フルタイムやパート・アルバイトが増加

- ① 「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない」の割合が32.9%と最も高くなっています。
- ② フルタイムやパート・アルバイト等、形態を問わず就労している母親の割合は、平成30年度は63.8%、令和5年度75.5%と11.7p増加しています。

母親の就労状況

- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である
- ▤ パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護等で休業中ではない
- ▥ パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護等で休業中である
- ▧ 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答



※ 回答対象は就学前児童対象調査の全員（父子家庭を除く）

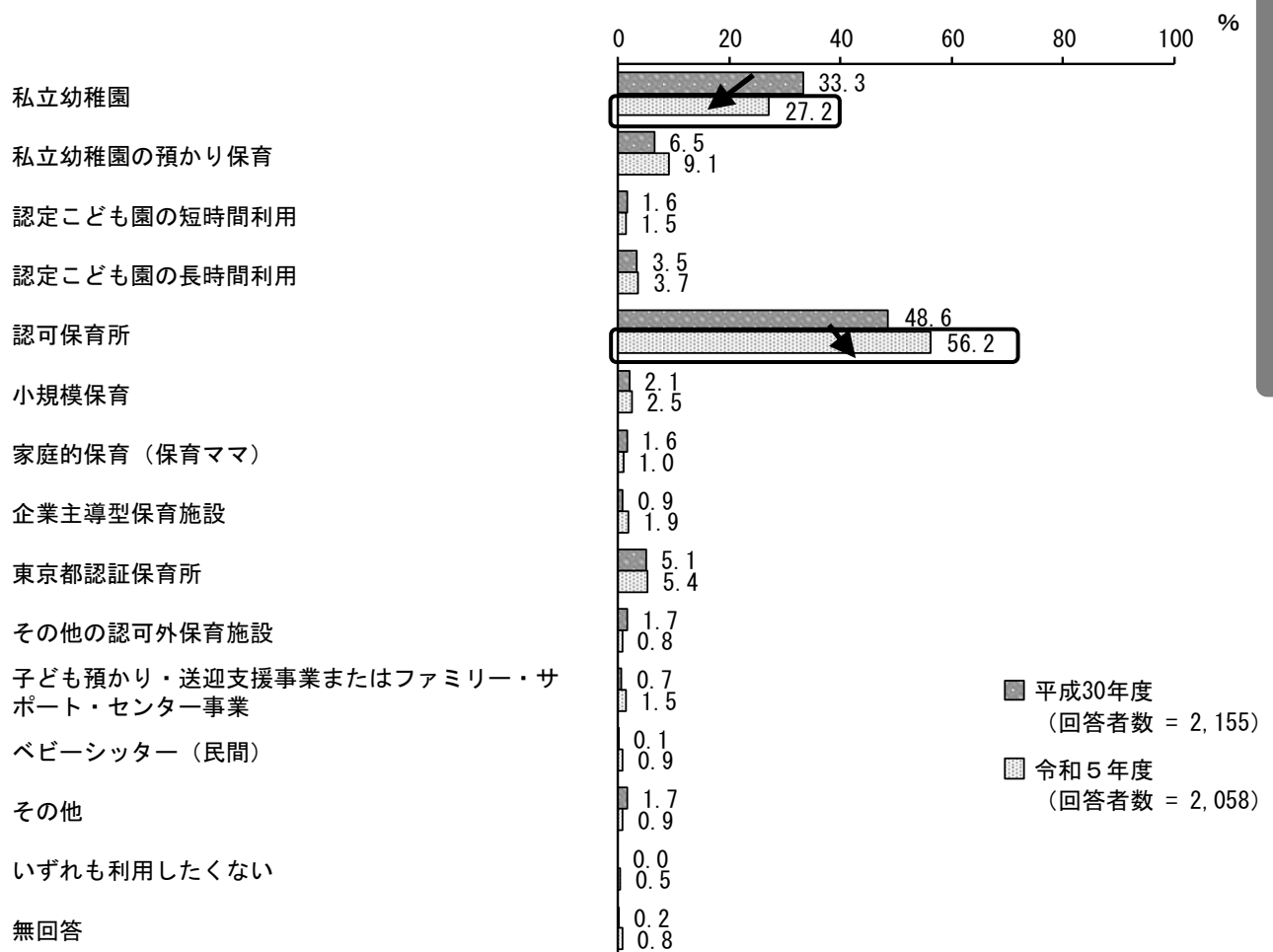
資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

(2) 保育サービス等の利用状況

認可保育所の利用が増加（就学前児童の保護者）

- ① 「認可保育所」の割合が56.2%と最も高く、次いで「私立幼稚園」の割合が27.2%となっています。
- ② 平成30年度と比較すると、認可保育所の利用割合が7.6p増加している一方で、私立幼稚園の利用割合が6.1p減少しています。

利用している教育・保育事業の内容



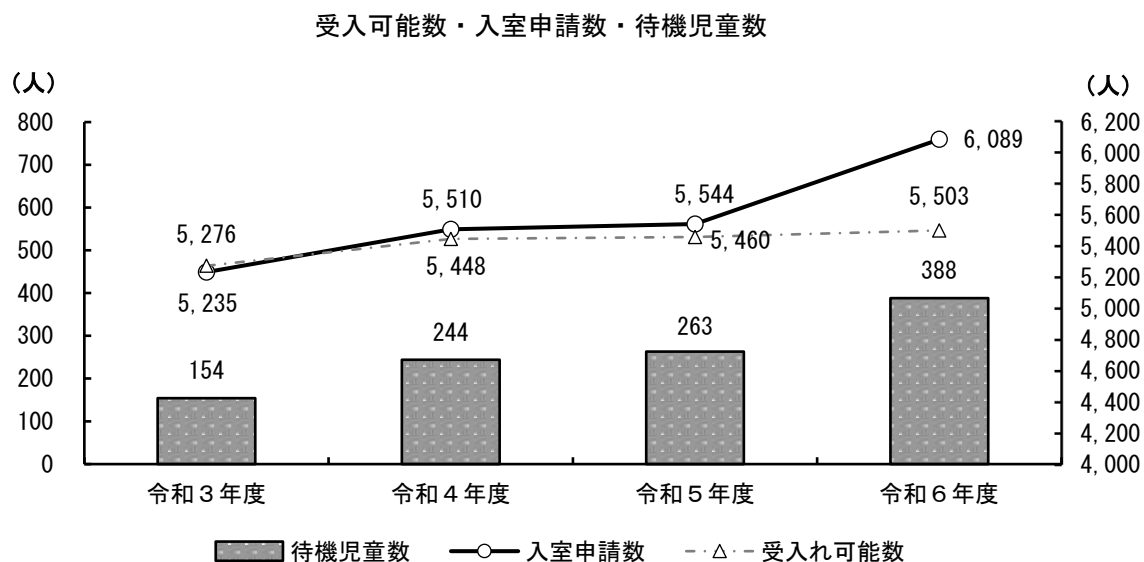
※ 複数回答のため、合計は100%に一致しない

※ 回答対象は教育・保育事業を「利用している」と答えた人

資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

学童保育室の申請者数が受入可能数を上回り、待機児童数は増加傾向

- ① 令和6年度学童保育室の申請者数は6,089人、受入れ可能数は5,503人です。
- ② 令和6年度の待機児童数⁷は388人で、令和5年度から約47.5%増加しました。



資料：子ども支援専門部会資料（令和6年度学童保育室の入室申請受付状況について）

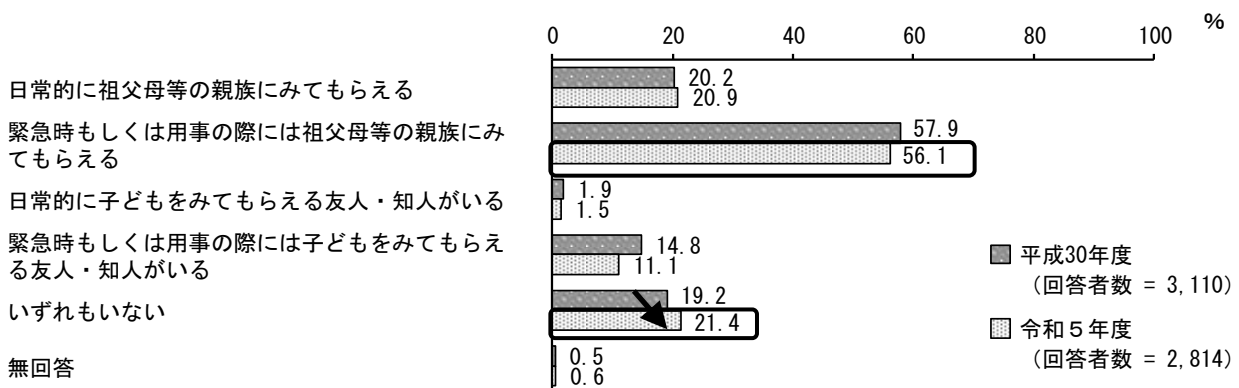
⁷ 児童館特例利用に登録せず学童保育室の入室を家庭内で待っている児童の数。

(3) 子育て環境について

親族や知人に子どもをみてもらえない保護者が2割（就学前児童の保護者）

- ① 「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が56.1%と最も高くなっています。
- ② 子どもをみてもらえない保護者が約2割いることがわかりました。

子どもをみてもらえる親族・知人の有無



※ 複数回答のため、合計は100%に一致しない

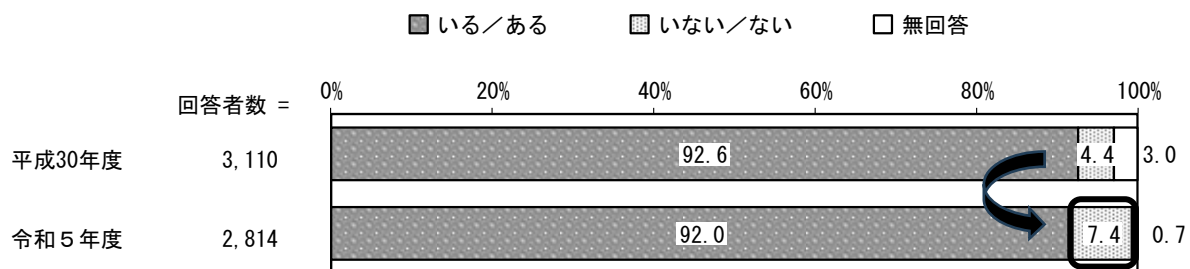
※ 回答対象は就学前児童対象調査の全員

資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

子育てについて相談できない保護者は約7%存在している

- ① 「いる／ある」の割合が92.0%と高い割合となっています。
- ② 「いない／ない」の割合が7.4%で、平成30年度調査の4.4%から3p増加しました。

子育てについて相談できる人・場所の有無（就学前児童の保護者）



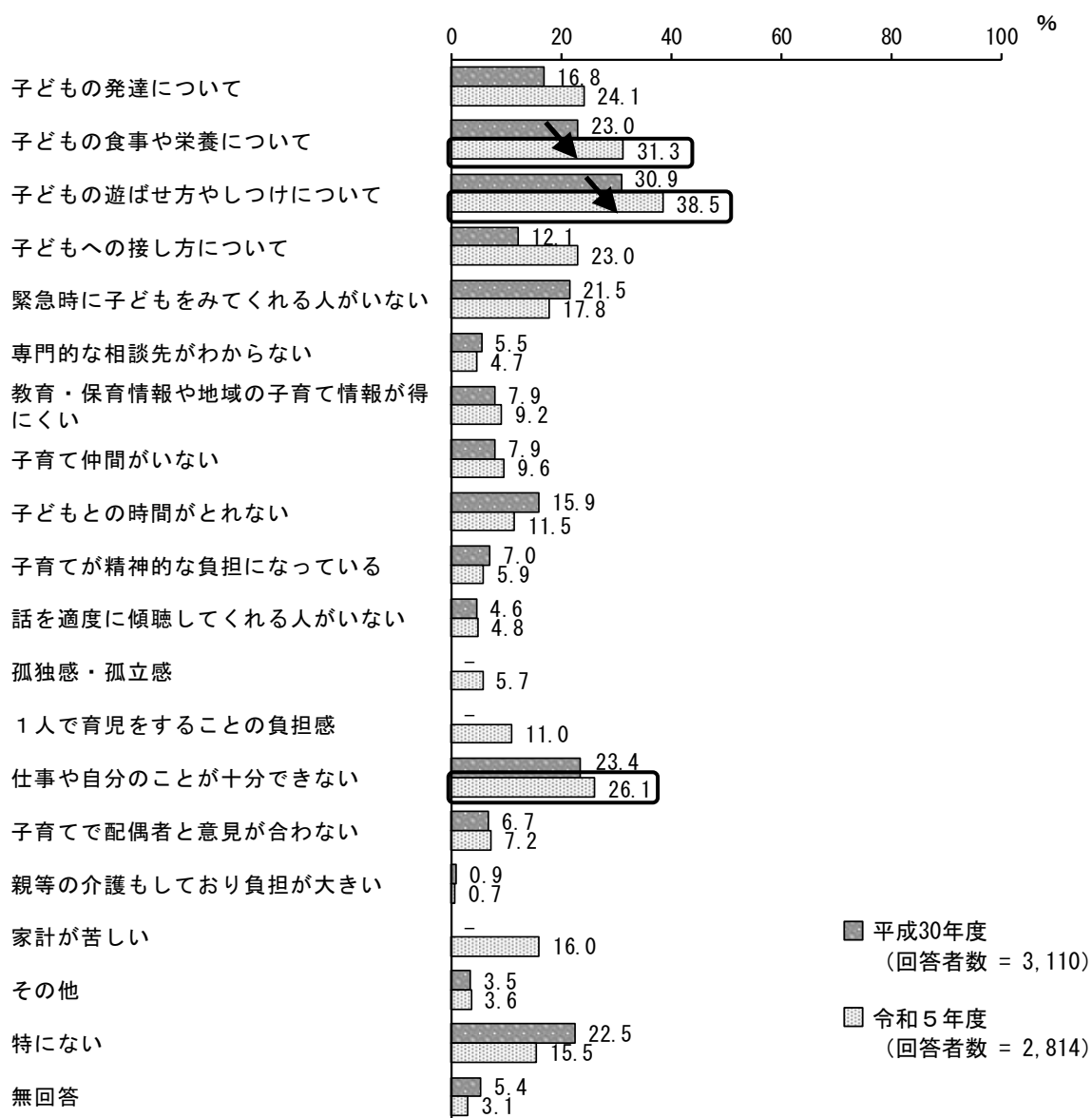
※ 回答対象は就学前児童対象調査の全員

資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

「子どもに関する悩み」は増加傾向

「子どもの遊ばせ方やしつけについて」の割合が38.5%と最も高く、次いで「子どもの食事や栄養について」の割合が31.3%、「仕事や自分のことが十分できない」の割合が26.1%となっています。

子育てに関する悩み（就学前児童の保護者）



※ 回答対象は就学前児童対象調査の全員、複数回答のため、合計は100%に一致しない

※ 平成30年度調査で選択肢になかった項目は「-」としている

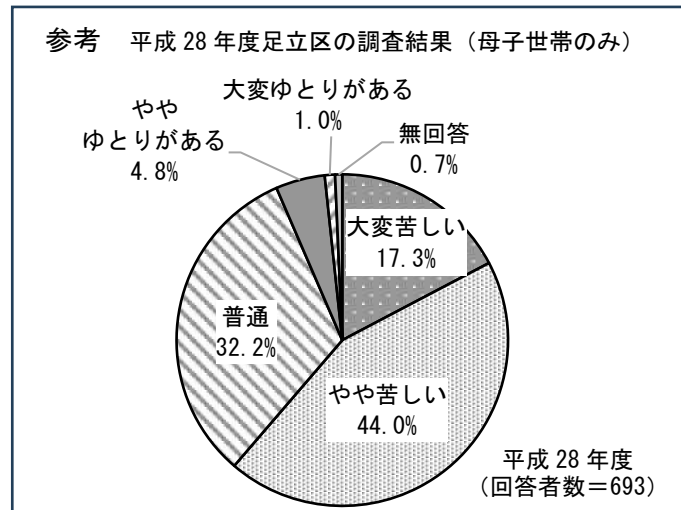
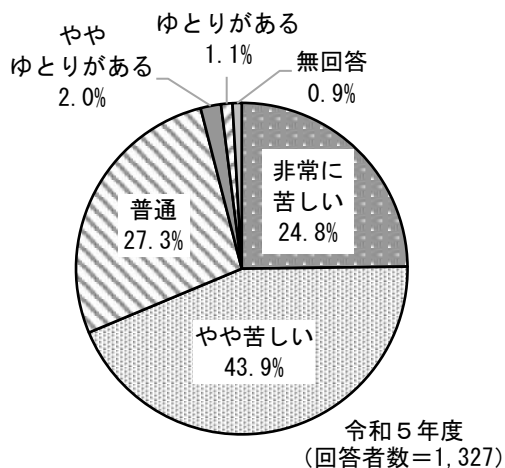
資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

(4) 配慮を要する子育て家庭の状況

ひとり親家庭の経済状況はやや苦しい状況にある

現在の暮らしの総合的な経済状況について、「やや苦しい」が43.9%で最も高くなっています。次いで、「普通」が27.3%、「非常に苦しい」が24.8%となっています。

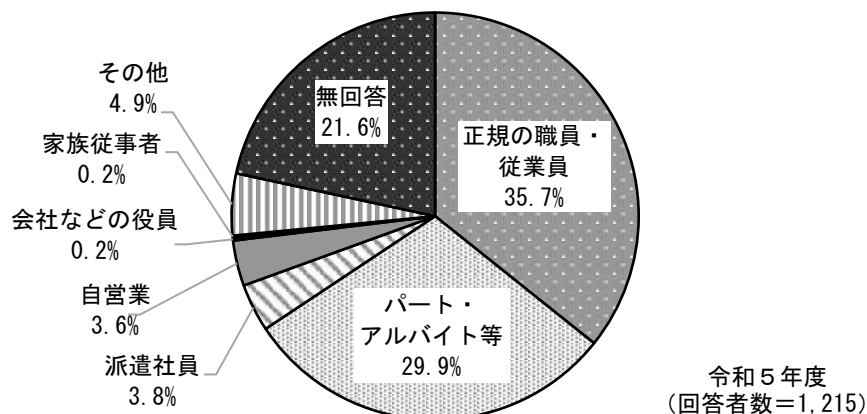
現在の暮らしの総合的な経済状況



正規職員・従業員は4割弱、現在の仕事・働き方を変えたい割合が約4割

現在の雇用形態について、「正規の職員・従業員」が35.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等」が29.9%となっています。

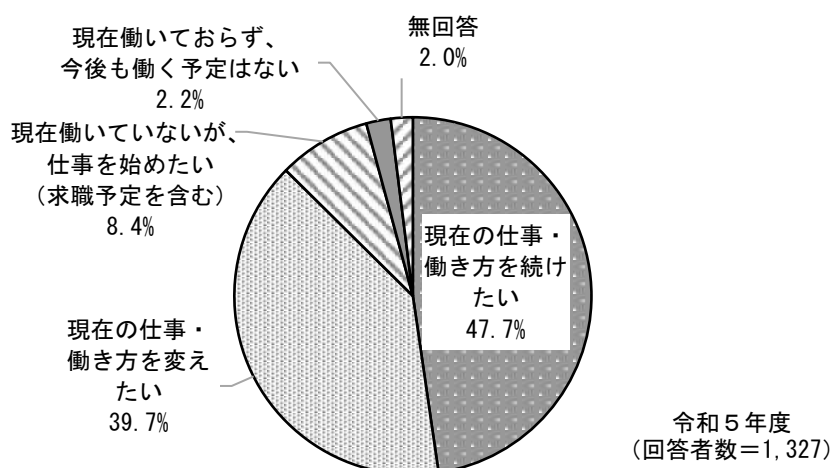
現在の雇用形態



資料：令和5年度足立区ひとり親家庭アンケート調査（豆の木アンケート調査）報告書の概要

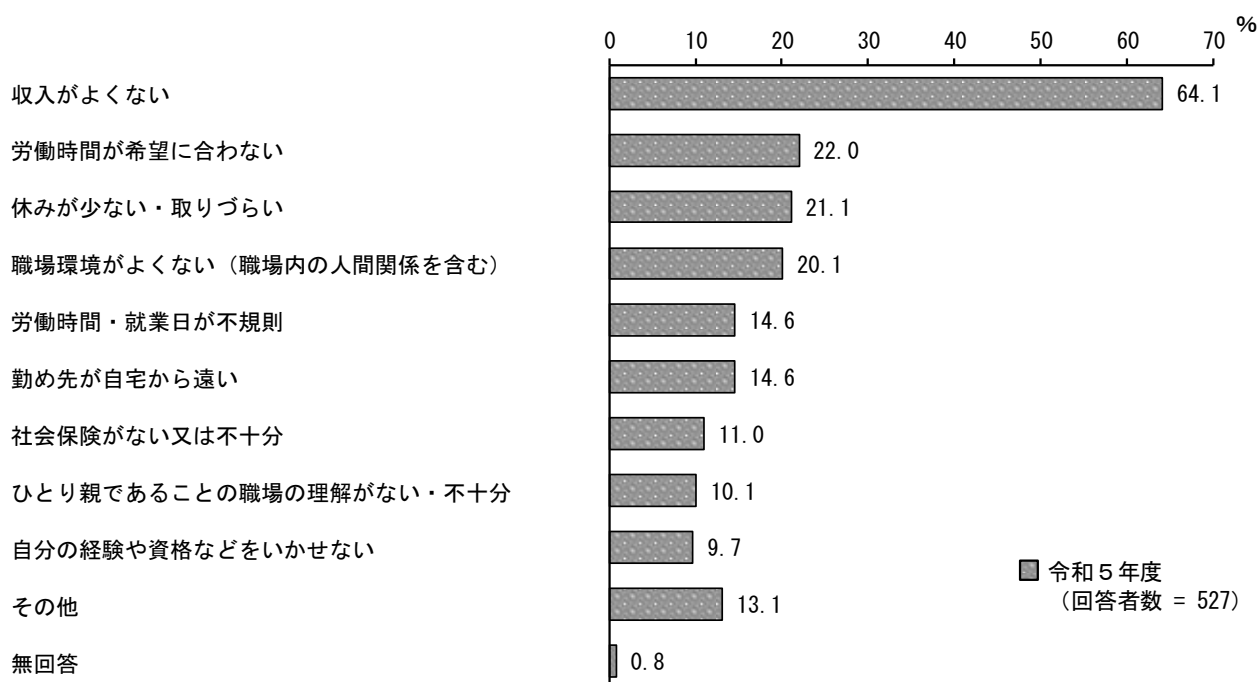
現在の仕事・働き方について、「現在の仕事・働き方を続けたい」が47.7%で最も高く、次いで「現在の仕事・働き方を変えたい」が39.7%となっています。

現在の仕事・働き方を変えたいか



現在の仕事・働き方を変えたい理由について、「収入がよくない」が64.1%で最も高くなっています。次いで「労働時間が希望に合わない」が22.0%、「休みが少ない・取りづらい」が21.1%となっています。

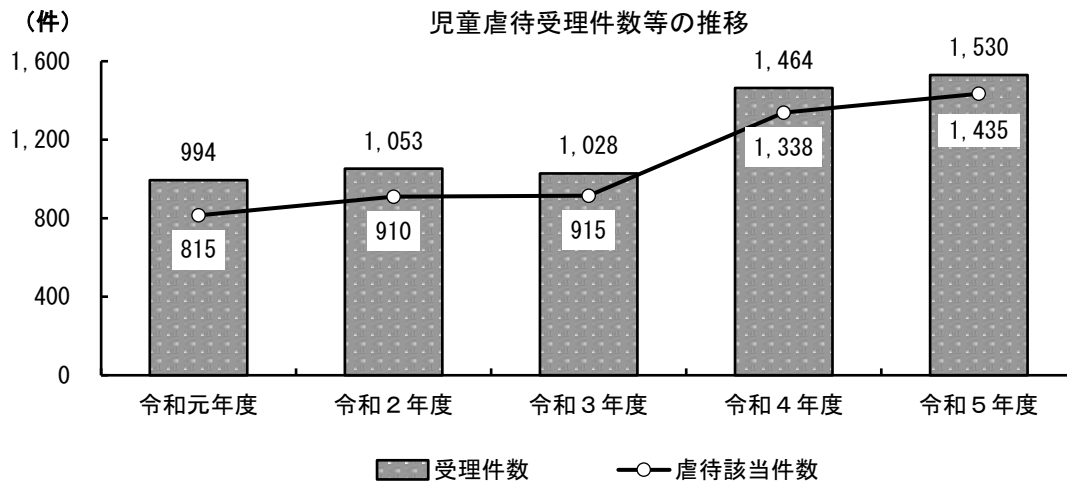
現在の仕事・働き方を変えたい理由



資料：令和5年度足立区ひとり親家庭アンケート調査（豆の木アンケート調査）報告書の概要

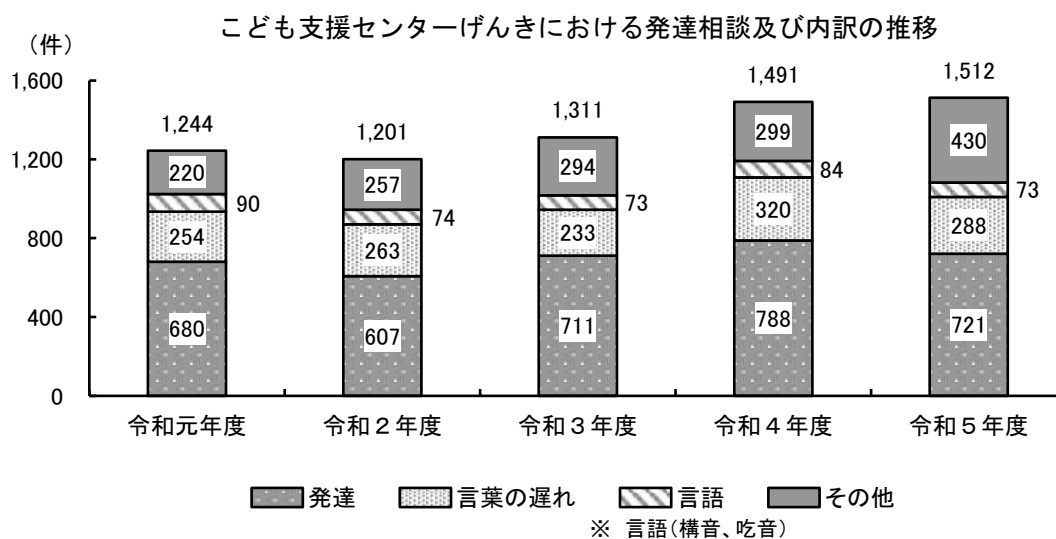
児童虐待受理件数、虐待該当件数ともに増加傾向

- ① 児童虐待受理件数及び虐待該当件数⁸ともに増加傾向です。
- ② 令和4年度の受理件数は1,464件と令和3年度と比較して約42.4%と大幅に増加しています。
- ③ 令和4年度の虐待該当件数は1,338件と令和3年度と比較して約46.2%と大幅に増加しています。



発達相談の件数は増加傾向

- ① 区内在住の0歳から18歳未満までの発達に関する悩みや心配ごと（発達障がいを含む）の相談件数は増加傾向です。
- ② 令和3年度の相談件数は1,311件で令和2年度と比較して約9%増加し、令和4年度は1,491件で令和3年度と比較して約14%と大幅に増加しています。



8 身体的虐待・性的虐待・心理的虐待・ネグレクト各件数の合計。

3 第2期計画 各施策の進捗状況

「第2期足立区子ども・子育て支援事業計画」において、各施策の達成状況は外部評価を受けています。経年ごとの評価点⁹は以下のとおりです。

(1) 施策群1：家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む

(5点満点)

施策	成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1-1 子どもの心身の健全な発達の支援	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合				
	1日3食、野菜（おかず・汁物など）を食べる幼児の割合	4.0	4.0	3.5	↓ 3.0
	「親子で絵本を読む」と回答した方の割合				
1-2 就学前からの学びの基礎づくり	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた保育施設等の割合	4.0	4.0	4.0	↑ 5.0
	基本的な生活習慣が身に付いている小学校1年生の割合				
1-3 特別な支援を要する子どもの状況に応じた支援の充実	相談児童数のうち、関係機関と連携できた割合	5.0	4.0	5.0	→ 5.0
	発達支援児の行動上の課題が軽減した割合				
1-4 子どもが社会と関わる力を育むための成長支援	アンケートで「新しいことを知ったり、チャレンジしたい」と思った子どもの割合	4.0	4.0	4.0	↑ 5.0
	あだち放課後子ども教室利用者満足度				

《各施策の達成状況》

各施策の取り組みは成果をあげており、施策1-2、1-3、1-4の評価点は5.0という結果となりました。今後は、これまでの取り組みの成果や課題点を洗い出し、各事業をさらに磨き、子どもの自己肯定感の向上に資する施策を継続して推進していきます。

- ① 【施策1-1】評価は下降傾向です。1つの要因として、「早寝・早起き・朝ごはん」1年間版カレンダーは期間が長いことから負担感を感じ、導入の取り組みを躊躇する園も一定数みられます。今後はアンケート等で事業改善を行い、子どもの心身の健全な発達を支援していきます。

9 足立区地域保健福祉推進協議会（子ども支援専門部会含む）における評価結果。

(2) 施策群2：妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える

(5点満点)

施策	成果指標	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
2-1 妊娠、出産、 子育てへの切 れ目のない 支援の充実	子育ては楽しいと感じる割合 ----- 保育コンシェルジュへの相談が役 にたった方の割合	5.0	4.0	4.0	➡ 4.0
2-2 子育てと 仕事の 両立支援	保育需要に対する待機児童率 【低減目標】 ----- 学童保育室の待機児童率 【低減目標】 ----- 「男女が対等な立場で意思表示や 活動をすることができ、また責任 を分かち合っている」と感じている 区民の割合	3.0	4.0	3.0	➡ 3.0
2-3 困難を抱える 子育て家庭へ の支援と虐待 の防止	虐待対応終結率 ----- 高等職業訓練促進給付金受給後の 正規雇用者数	4.0	3.0	4.0	➡ 3.0
2-4 安全・安心に 子育てのできる 生活環境の 整備	ユニバーサルデザイン推進計画の 個別事業の評価点の平均値 【子ども子育てに関する事業】 ----- よく行く、または行きたい公園が ある区民の割合	5.0	5.0	5.0	➡ 4.0

《各施策の達成状況》

取り組みを推進したものの、施策2-1、2-4の評価は4.0点、施策2-2、2-3の評価は3.0点という結果となりました。

- ① 【施策2-1】妊産婦への訪問や相談等を通じてきめ細かな支援が継続されていることから、令和5年度は令和4年度と同評価となっています。
- ② 【施策2-2】学童保育室の整備は進めているものの、待機児童の解消に至っておらず、令和5年度評価は令和4年度と同評価となっています。
- ③ 【施策2-3】評価は下降しています。要因は、相談件数の増加及び複雑かつ多様化する家庭の増加により支援が長期化し、虐待対応が終結しないためです。今後も困難を抱える家庭に対し、長期的に支援を続けていきます。
- ④ 【施策2-4】評価は下降しています。要因は、コロナ禍である令和3年度以前に設計し令和4年度に整備した区立公園等について、整備前に区民の意見を聞く仕組みが整っておらず、意見が反映できていないことが理由で、令和5年度のユニバーサルデザイン推進会議で令和4年度事業実施分の評価が下がったためです。今後は、公園等を整備する前に地域や子育て世代を含めた利用者の意向を広く取り入れ、安心して利用できる公園等の整備を行っていきます。

4 第2期計画 全体の評価

計画全体の評価

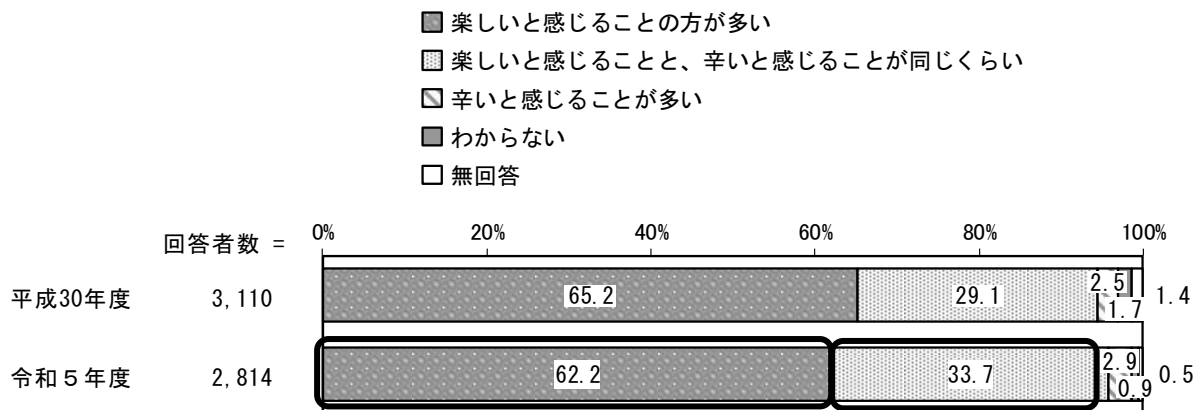
『子ども・子育て支援法に基づく基本方針』において、計画全体の成果（アウトカム）について、利用者の視点に立った指標を設定し、点検及び評価を行い、施策の改善につなげていくことが望ましいと明記されています。

そこで足立区では、令和5年度に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」結果を第2期計画全体の成果としました。

① 約6割の方が「子育ては楽しい」と感じている

「楽しいと感じることの方が多い」の割合が62.2%と最も高く、次いで「楽しいと感じることと、辛いと感じることが同じくらい」の割合が33.7%となっています。

子育てについての感想



※ 回答対象は就学前児童対象調査の全員

資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

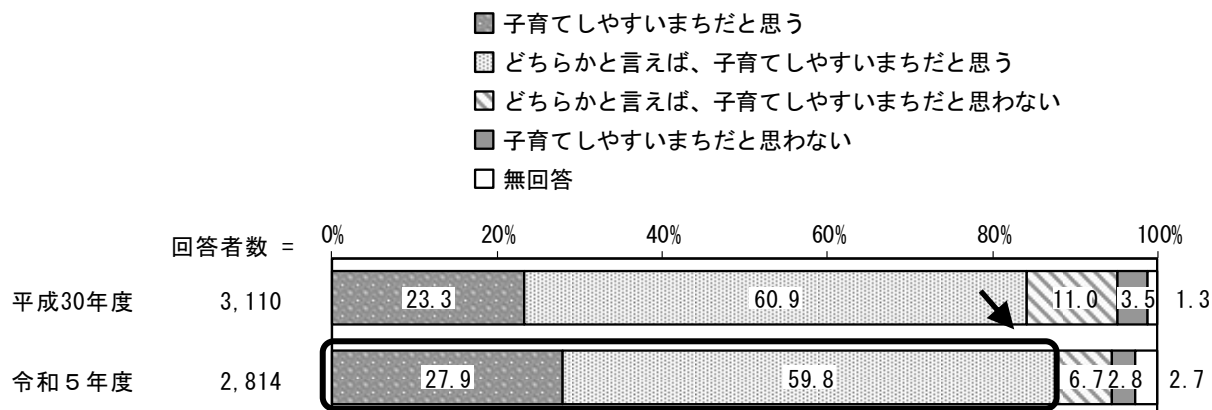
《ニーズ調査結果から見た成果ポイント》

- 約6割の方が「子育ては楽しい」と感じています。
- 「楽しいと感じることと、辛いと感じることが同じくらい」と感じている方は、平成30年度と比較して4.6p増加しています。

② 約9割の方が子育てしやすいまちだと感じている

「どちらかと言えば、子育てしやすいまちだと思う」の割合が59.8%と最も高く、次いで「子育てしやすいまちだと思う」の割合が27.9%となっています。

足立区における子育てのしやすさ（就学前児童の保護者）



※ 回答対象は就学前児童対象調査の全員

資料：足立区子ども・子育て支援に関するニーズ調査（令和5年度）

《ニーズ調査から見た成果ポイント》

○約9割の方が子育てしやすいまちだと感じています。

○子育てしやすいまちだと思っている方の割合は平成30年度調査から3.5p増加しています。

第2章

足立区の子ども・子育て
家庭を取り巻く現状と課題